

CLARINET

クラリネット

ロングトーンの基礎とキモ

持丸秀一郎 もちまる・しゅういちろう



- ◆出身 武蔵野音楽大学、同大学院、ハンガリー国立リスト音楽院
- ◆所属 日本センチュリー交響楽団首席奏者 日本クラリネット協会理事
- ◆趣味 料理、ドライブ
- ◆血液型 B型
- ◆星座 てんびん座
- ◆読者にひとこと 常に謙虚な気持ちで音楽に接してください
- ◆手紙の送り先 B.J. 受付

心地よい気候になってきましたが、みなさん楽器と楽しく過ごしていますか？ さて、先月私の名前のお話をしましたが、今回も名前のお話から。私の所属している大阪センチュリー交響楽団が、この4月から日本センチュリー交響楽団に名称変更をしました。従来通り大阪が本拠地ですが、これまでよりも広く日本中に活動範囲が広がりますので、各地のみなさん、演奏会のチラシを見たときにはぜひ聴きにきてくださいね！

さて、先月紹介したモーツァルトの五重奏曲と協奏曲、聴いてくれましたか？ クラリネットの魅力が最大限に詰まった曲ですので、まだの人は必ず聴いてね。まずは、クラリネットはどんな音がするのか、どんなことができるのか、頭の中にイメージできるようにしてください。

では今月は、イメージを音にするにはどんな練習をしたらいいのか、具体的な練習方法を紹介します。まずはロングトーンです。

【譜例】を演奏してみてください。「えっ、いきなり休符!?」と思ったアナタ！そうです、楽器を演奏するにはまず頭の中でどんな音を

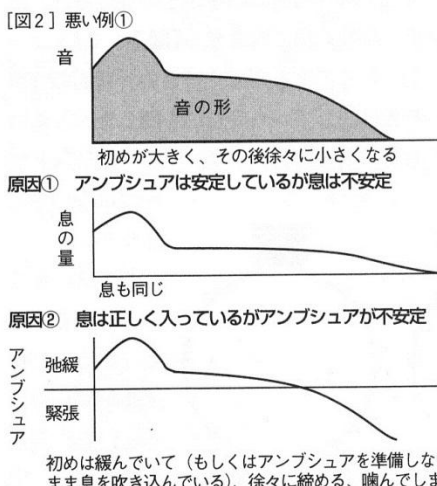
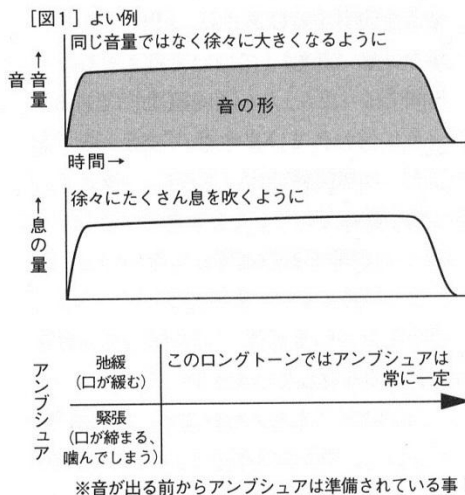
【譜例】 ♩=40~72 (初めは徐々に速くしてください)

この4拍で、頭とカラダの準備をする。

ロングトーンの練習で気をつけるポイント

- 1) まずは頭の中の準備
どんな音の高さ？
どんな音色（ねいろ）？
どのくらいの音量？
- 2) からだの準備
指は正しく押さえられているか
アンブシュアは準備できているか
息はたくさん吸えているか
- 3) 音を出す瞬間から音を切るまで
音の始まり
音が持続している間
音の終わり
- 4) 一度吹き終わってから
実際にどんな音が鳴っていた？

出したいのかイメージし、そのためには何が必要なのか、考え、準備することが大切です。この4拍の間にこれから鳴る音をイメージし、指を押さえて、アンブシュアを整え、息を吸います。ここでは発音（音の出る瞬間）のときに、タンギングをしないで息だけで音を出すようにしてください。このとき、喉が「クッ」や「ウッ」と鳴らないように。音を伸ばしている8拍間はずっと同じ音量ではなく、ほんの少しずつクレッシェンドするつもりで。同じ音量で演奏しているつもりでも、肺の中の息はどんどんなくなっているため、本人が気づかないうちにどんどん音が小さくなってしまふことがあるからです。音を切るときは



突然「ブツッ」と切れないように、小さなデクレッシェンドがあるように意識して演奏してください。また音が揺れないように、息を一定に吐き続けてほしいのですが、例えば音楽室のグランドピアノを移動させようとずっと押し続けているような、同じ抵抗感を持ち続けるイメージを持つといいと思います。

またタンギングをしないので、【図1】のように瞬間的なクレッシェンドで音が出始めると考えてください。けっして【図2】のように爆発したり、【図3】のように徐々に搾り出すような音にならないように気をつけましょう。【図4】もよく起こりやすい症状です。これらの問題は、大体が息の入れ方や量、アンブシュアに原因があります。その例を図にしているので参考にしてください。

それではまた来月♪

